

日蓮聖人門連だより

発行
日蓮聖人門下連合会
〒146-8544
東京都大田区池上1-32-15
電話(03)3751-7181

平成28年10月13日
第54号

【法華宗（陣門流）】

平成三十年に門祖 六百御遠忌！

法華宗（陣門流）では、平成三十年に門祖・円光坊日陣尊聖人（一三三九―一四一九）の六百御遠忌を迎えることから、現在、報恩謝徳のための具体的な御遠忌記念事業を種々立案すべく、実行委員会を本格的に始動させ、挙宗体制で聖儀に臨む準備に入っている。

法華宗（陣門流）は、宗祖日蓮大聖人の末法救済の仏教の本質が本門法華教学に存すると見定めて、本勝迹劣（約説已今本迹法体勝劣）を宣揚し、以て宗祖教学の存立理念を順守せんとしてきた。常に各時代先端の学問水準で純粹日蓮教学を志向するという、誇るべき伝統を有する。平成二十一年に宗務総長に就任された佐古弘文聖人は「教学第一」の宗政方針を打ち出され、爾来、かかる宗風を現代の



日蓮尊聖人（新居・本果寺蔵）

中で更に強化し、より精度の高い教学の確立を目指し尽力している。このような教風の礎を室町時代に固められたのが、本宗中興の祖とも称される門祖日陣尊聖人であり、門祖並びに門下による伝道の拠点となったのが越後の総本山・長久山宝塔院本成寺である。

本成寺は、今から約七百二十年前の永仁五年（一一九七）、朗門の九鳳の一人である日印尊聖人（一二六四―一三二八）によつて創建された。即ち日印尊聖人は故国越後に宗祖の教えを弘めようと三十四歳の時、越後蒲原郡薄曽根村の地に至り、白牛跪座、忽ちに青蓮華が咲く奇瑞を得、聖地に庵室をつくり布教の礎となされた。今もこの聖地は牛池と呼ばれ、霊跡とされている。当時の領主山吉定明は、日印尊聖人の高徳を慕い伽藍を建立し寄進した。これが本成寺である。元応元年（一三一九）、日印尊聖人は執権北条高時の命により諸宗の碩学と問答しこれを論破。その報功により師の日朗尊聖人より宗祖付嘱の三箇靈宝を授かったことが知られる。

同二年、霊地松葉ヶ谷に本勝寺（後に京都に移り本國寺と改称さる）を建立し、嘉暦二年（一三二七）本成寺を根本道場、門下の棟梁と定め（「本成寺置文」）、まもなく遷化されたのである。

その後、時代は降り、室町時代、応安二年（一三六九）、越後出身の門祖・日陣尊聖人は三十一歳の時、師の日静聖人より越後・本成寺の法灯を継承し、その後も、永徳三年（一三三三）四十五歳の折には遠江鷲津の真言宗薬師堂住持を改宗せしめ常霊山本興寺と改めるなど、教線の伸張を目指して果敢な布教活動を展開された。然るに、応永四年（一三九七）以来、建立院日伝聖人をはじめとする京都・本國寺と本迹論争を繰り広げることとなった（陣伝論争）。これは、約宗勝劣約体一致という一往本勝迹劣・再往本迹一致を主張する本國寺への批判を通して、天台教学が最優先されて宗祖日蓮大聖人の教学の本来性が等閑視される傾向にあった当時の日蓮門下全体へ鳴らされた警笛でもあった。かくして、応永十二年（一四〇五）、日陣尊聖人とその門下は京都本國寺と決別することとなり、帝都布教の本拠地として光了山本禅寺を建立するに至った。

このような日陣尊聖人の一期の行功が、日蓮教学史全体の中でも、宗祖本来の本門中心の法華経

観を確認する潮流を生み出す重要な契機となったことは、人口に膾炙するところであろう。

叙上の歴史を踏まえ、今般、法華宗（陣門流）では、総本山・本成寺をはじめ、日陣尊聖人縁の本禅寺・本興寺の両本山で順次、御遠忌大法要を営み、陣伝論争の様子を如実に伝える本國寺側の『本迹難（五十五箇条難勢）』と、それに対して日陣尊聖人が著した回答書『本迹同異決』の諸写本を校合して厳密に活字化し、更に会本の体裁で編集することにより、今後の門下に教学史的遺産を残そうと意欲的に取り組んでいる。そして、より多くの宗内外の方々に門祖の功績を知って頂くこと、一般向けの伝記本を刊行する予定である。

ティラウラコット 発掘支援

積尊出家の地カピラ城に比定されるネパール・ティラウラコット遺跡の発掘調査が、平成二十六年からユネスコにより開始されている。本年二月十日、その発掘現場を陣門流管長・門谷日悠猥下、牧野秀成総務部長をはじめとする僧侶・檀信徒約二十名が視察した。

この視察で発掘を主導するダラム大学（イギリス）のロビン・カニンガム教授と前ネパール政府考古学局長コシユ・プラ

サッド・アチャールヤ氏の署名による感謝状が陣門流に贈呈された。

陣門流がこのプロジェクトへの協賛を決めたのは、平成二十六年三月の宗会（赤塚高明議長で、故村上日源聖人によりティラウラコットに建立されたリツショウイン・シャンティビハールが発掘チームに宿泊施設を提供する報告を受け、宗門としてダラム大学へ五万米ドルの発掘支援金を承認したことによる。この決定は、佐古弘文宗務総長の署名でダラム大学へ伝えられ、その後、ダラム大学のクリス・ヒギンス学長より感謝の書簡が届いている。

同年八月、ユネスコによる「積尊生誕の地ルンビニの保護と管理強化プロジェクト」の関係者会議がルンビニで開催され、陣門流は布教研究所・門谷日悠所長（当時）を代表に、宗会から小林明雄議員を含む五名を派遣して、ティラウラコット発掘プロジェクトに対する経済支援の表明とダラム大学との間で覚書を交わした。

更に平成二十七年五月には、ロンドンで催されたカニンガム



陣門流の支援に感謝状
写真左より、ダラム大学研究員クリス博士、前ネパール政府考古学局長アチャールヤ氏、法華宗（陣門流）管長門谷日悠猥下、法華宗（陣門流）総務部長牧野秀成上人、法華宗（陣門流）宗務主事村上東俊上人

十九世紀末よりはじまったティラウラコットの調査は、今回のユネスコによる発掘でクライマックスを迎えているといつても過言ではない。プロジェクトチームは、遺跡全体の解明を主眼におきながら、発掘作業と並行して最新の機材を用いた磁気探査をおこないデータを収集・解析し、また過去の調査に対する検証などもおこなっている。今年には昨年の磁気探査で新たに判明した壁で囲われた巨大建造物の発掘に着手している。この巨大遺跡が法顕や玄奘の伝える宮殿であるのか、今後の調査に世界中の仏教徒・研究者から大きな注目が寄せられている。

從地ゆじゅつ

◆今夏はオリンピックで大いに沸いた日本。開催地ブラジルは日本の真裏のため、深夜や早朝での放映で寝不足の国民も多かったに違いない。そのような中、日本選手のメダル獲得が相次ぎ、史上最高の金十二個、銀八個、銅二十一個となった。

◆開催前は経済や治安の問題、環境、そして肝心の競技場が完成するのかが等々の報道があったが、オリンピックが始まってしまつてメダルラッシュの話に集中した。

◆体操競技で金メダル第一候補の選手が得意科目で落下した。その後のインタビューで彼が口にしたのは「オリンピックには魔物がいる」という言葉だった。その魔物とはいったい何なのか。その二日後、この選手をはじめ他の選手も普段以上の演技をし、見事に逆転金メダルを取った。どのような変化が起こったのだろうか。

◆約二十年前、ある兄弟の活躍が大相撲界でブームを呼んだ。当時、各界では昭和を代表し、小柄ながら技とスピード感のある名横綱がその名を馳せていた。この横綱との初取り組みで金星をあげたのが、弟の力士である。この力士の取り組みでも記憶に残る一番が、けがからの復帰後の優勝決定戦である。誰もが取り組み相手の勝ちを確信していたが、豪快な上手投げで勝利をおさめた。勝利後の表情は、まさに鬼の形相で、当時の首相も「痛みを耐えてよく頑張った。感動した。おめでとう」と賞賛した。後世相撲史に語り継がれる大一番となった。その力士が横綱になる時の口上では「不撓不屈の精神で相撲道に不撓不命で貫きます」と伝えている。

◆「蔵の財よりも身の財すべからず」。身の財よりも心の財第一なり。心、すなわち精神を努力によって正すことが大事と論じている。

◆体操選手も横綱も日々の練習や生活態度により、自分の心にある「魔物」や「プレッシャー」に打ち勝ち、一番輝く金メダル、賜杯を受け取ったに違いない。

(明)

《各派のページ》第十回 「国柱会内外で活躍する人物」



国柱会講師
田中いく子さん

田中いく子さん

（プロフィール）
たなか いくこ
昭和二十四年（熊本県生まれ）石川県出身。金沢女子短期大学高等学校卒業。二十五年度間崎玉県内の特別支援学校介助員として勤務。昭和五十七年三月、日蓮聖人門下「青年の船」に乗船参加。現在、障害児学童保育室勤務。

■未来へ伝えるために

国柱会では青少年育成の為、昭和二十七年より「青少年夏期学校」がある。今年は、宮沢賢治ゆかりの地、花巻で行われた。日蓮聖人の純粋な信仰が受け継がれ、広宣流布の足がかりになればどんなに嬉しいことだろう。食事には食法を通して、仏様

や人々への感謝の心を育くみお腹を満たすと同時に心を養う。「わたくしたちは、一つぶのお米も一滴の水も感謝していただき、心とからだをやしなうて立派な日本人になります。いただきます」朝のお勤めの後、食法を唱え、楽しく食事をしてから一日の活動がスタートする。

子供達が互いに影響しあいなから信仰を育んで行けるように、



国柱会講師
藤本坦孝さん

藤本坦孝さん

■数学から教学への転進

本欄の執筆者はお寺の出身の方が多いようであるが、私は農家の次男坊で、高校卒業までは六甲山北方に位置する一山村（現神戸市北区淡河町）で過ごした。田舎暮らしを至上とする父の意向に背けず、中高校の教員養成機関である神戸大学教育学部数学科に進学したが、大学で高校の数学とは一味も二味も異なる純粋数学に触れて、すっかり魅了されてしまつて、いつしか大学院への進学

（プロフィール）

ふじもと ひろたか
昭和十二年兵庫県生まれ。
神戸大学教育学部数学科卒業。名古屋大学大学院理学研究科数学専攻博士課程中退。名古屋大学教養部教授を経て昭和五十九年、金沢大学理学部教授。平成十五年同大学退官。現在は金沢大学名誉教授、理学博士。専門は、複素解析学の幾何学的応用。昭和六十二年、日本数学会幾何学賞受賞。
主な著書『複素解析』（岩波書店、平成八年刊）、『日蓮思想の論理構造』（山喜房佛書林、平成二十六年刊）。

を考えるようになった。ここで親孝行の仮面を剥ぎ取り、父に内緒で名古屋大学大学院の入試を受け、合格通知を手にした上での談判に成功し、数学の研究者を目指す勉強に取り組むことになった。

その後幸いにも名古屋大学工学部助手に採用され、名古屋工業大学、名古屋大学教養部、金沢大学理学部と勤務先を変えながら、平成十

今年のテーマは「縁」であった。校長先生は子供達に問いかける。「君にはお父さんとお母さんがいる。二人だね。ではおじいさんとおばあさんは？」「四人」「ではそのおじいさんとおばあさんのそのまた両親を合わせると何人？」「限りなく広がっていく多くの先祖様の先頭に君たちは立っているね。どの一人が欠けても今の君はいない。みんな大切な一人一人なのだ」という話に子供達は競って数学を答え、うなずきながら耳を傾けていた。

二日目は昨日の「縁」をうけて宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を皆で朗読した。賢治も十歳で浄土真宗の篤信であった父・政次郎氏と共に夏

五年三月定年退官を迎えるまで、数学の教育・研究に携わってきた。当今、六十五歳では、悠々自適の隠居住まいにはまだ早すぎると迷っていたところ、縁あって、国柱会から、嘱託研究員として働く気がないかと声を掛けられ、法華経の研究のみに専念してよいとのことなのでお受けした。

私と国柱会との縁は、祖父が



平成二十二年十一月十七日「田中智学先生報恩の集い」にて、参列者へ向け信感発表。

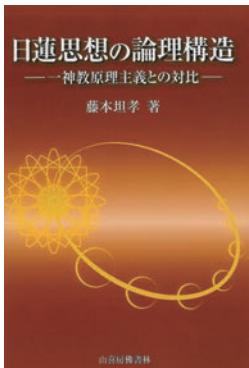


平成二十七年年度国柱会全国青少年夏期学校（伊豆高原）にて、子ども達に『蜘蛛の糸』芥川龍之介作を朗読・解説。

期仏教講習会に参加していた。三歳で、伯母やぎさんの唱える「正信偈」や「白骨のおふみ」を暗誦できたという。また、「人というものは、人のために何かしてあげるために生まれてきた」と話す母イチさんの溢れる情愛の中で育てられた。信仰のある家庭がどれ程大切なことか。幼児期からの

国柱会会員であったことから始まる。祖父は熱心な読書家だったようである。生家には、『本化聖典大辞林』、『類纂高祖遺文録』を始めとして多くの仏教書が山積みされていたことを今でも思い出す。帰郷の際、折にふれてこれらの本を気の向くままに拾い読みした。そんな経験のなかで、厭世観や個人個人の安心を説く仏教とは一味も二味も異なる日蓮聖人や法華経の教えに触れて、すっかり魅了されてしまい、時間が許せば一度本格的に勉強したいと考えてようになった。こんな思いがいつしか国柱会本部に漏れ伝わり、それが縁で、上記のように嘱託研究員奉職の件が浮上り、今日に至った次第である。

■真理は一つ無有若二若三



筆者近著『日蓮思想の論理構造——神教原理主義との対比』（山喜房佛書林刊）本書では、日蓮聖人の思想について、多様な思想のそれぞれを活かして統合することを志向して、排他的でないことを、数学研究者の感性を活かして論証している。巻末には「数える数と分ける数」「銀河鉄道の夜」と法華経二編を収録。

土台がしつかりできていたからこそ、弱冠十八歳で法華経に出会う機縁に恵まれた時「只驚喜し身軀ひ戦けり」（草野心平の年譜）の感動に包まれたのだろう。法華経に目覚めてからは熱烈な研鑽を重ね、二十四歳で国柱会に入会し、大曼荼羅御本尊を授与された。この日から純粋な法華経の実践者として誓願の日々が臨終の日に至るまでゆるぎなく続くのだ。

「合掌 私の全生涯の仕事は、此経をあなたの御手許に届け、そして其中にある仏意に触れて、あなたが無上道に入られん事を御願

手が違う。幾冊かの仏教解説書を開くと、多種多様な仏が登場して様々な教えが説かれ、それらが互いに整合しあっていないことが多い。真理は一つしかないと思いが、研鑽を重ねる中で思い付いたことを、平成十七年十月以来国柱会機関紙『真世界』に、毎回教員すつだが書き綴ってきた。これまで、「日蓮教養子会通ノート」

「斜読『妙法蓮華経』」、「斜読『開目鈔』」との題で発表し、現在、「斜読『観心本尊鈔』」を執筆中である。なお、これらの記事に関連して、最近、山喜房佛書林から拙著『日蓮思想の論理構造——神教原理主義との対比』を刊行し、また、『妙法蓮華経』を現代に読む」と題した論考を『法華仏教研究』において、十回に分けて発表した。

いするの外ありません」この遺言は本仏の誓願、如来寿命品の偈と何と似ているのだろう。

仏様と一体となり、ますます輝きを放つみごとな生涯であった。「法華文学」を志した童話には、人も動物も自然もすべてがほんとうのしあわせを求め法華経の魂がこめられて生き生きと語られる。その童話は世界へ翻訳され拡がり続けている。これ程の法華経広宣流布の人はいるだろうか。宮沢賢治という人が国柱会の会員だったことに驚き、誇りを持ち、励みとなってほしい。

この日本から法華経の心を世界に発信して争いのない「ほんとうの平和」を作る人間になる様その育成は、日蓮聖人門下に連なる私達の責務なのだ。微力ながら力を合わせ精進していきたい。

私の数学者仲間達をも説得できる様な数学の構築も可能かもしれないと思うようになった。

この課題に答えるには程遠いが、研鑽を重ねる中で思い付いたことを、平成十七年十月以来国柱会機関紙『真世界』に、毎回教員すつだが書き綴ってきた。これまで、「日蓮教養子会通ノート」

日蓮宗宗務院

管 長 内野日総 財務部長 中川法政
 宗務総長 小林順光 宗務総長室長 小林正雄
 伝道局長 中井本秀 現代宗務研究部長 三原正資
 総務局長 塩崎望巳 参 与 山口裕光
 伝道部長 松井大英 参 与 吉田海心
 教務部長 柘植海潮 日蓮宗新聞社長 草ヶ谷秀人
 教務部長 川口智康

〒146 8544 東京都大田区池上一―三二―一五
 電話 〇三(三七五)七七八一
 FAX 〇三(三七五)七七八六
<http://www.nichiren.or.jp>

法華宗(本門流)宗務院

管 長 小西日遼
 宗務総長 二瓶海照
 総務部長 金井孝顕
 布教部長 久永晃顕
 教学部長 三吉廣顕
 財務部長 清水常光
 企画部長 山田庸温

〒103 0013 東京都中央区日本橋人形町二―一九―一
 電話 〇三(五六一)三〇五五
 FAX 〇三(五六一)三〇五六

顕本法華宗宗務院

管 長 山本日恵
 宗務総長 島田幸晴
 宗務次長 秋葉敬真
 布教部長 早川義正
 財務部長 湯原純勇
 庶務部長 津村乗信
 社会部長 藤本智成
 教務部長 湯原正純

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
 電話 〇七五(七九二)七二七一
 FAX 〇七五(七九二)七二六七

法華宗(陣門流)宗務院

管 長 門谷日悠
 宗務総長 佐古弘文
 総務部長 牧野秀成
 教学部長 布施義高
 教化部長 松吉慶憲
 財務部長 金原孝宜
 企画部長 今井満良

〒170 0002 東京都豊島区巣鴨五―三五―六
 電話 〇三(三九一)七二九〇
 FAX 〇三(三九一)〇二二一

本門佛立宗宗務本庁

宗務総長 木村日覺
 宗務副総長 亀井日魁
 宗務副総長 西村日勲
 教務局長 小西日演
 弘通局長 植西日事
 総務局長 小野日将
 広報局長 永江日盡
 財務局長 岡田日秀
 奉賛局長 藤本日朗
 センター特別局長 藤本日唱

〒602 8377 京都市上京区御前通二条上る東堅町一―〇番地
 電話 〇七五(四六一)一六六六
 FAX 〇七五(四六一)五九九九

日蓮本宗宗務院

管 長 丹治日遠

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
 電話 〇七五(七七二)三三九〇
 FAX 〇七五(七七二)五九一四

法華宗(真門流)宗務庁

管 長 田仲日紘
 宗務総長 堀智泰
 総務部長 木村完祥
 教学部長 堀内浩善
 教化部長 加藤順昭
 財務部長 上田泰源
 社会部長 峰尾泉栄

〒602 8447 京都市上京区智慧光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
 電話 〇七五(四四一)五七六二
 FAX 〇七五(四四一)五六六六

本門法華宗宗務院

管 長 松下日肆
 宗務総長 香川日憲
 宗務副総長 増田日雄
 総務部長 吉村日彦
 財務部長 高邊日晶
 教務部長 土畑信教
 庶務部長 松本真隆

〒602 8418 京都市上京区寺之内通大宮東入大本山妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三二二七
 FAX 〇七五(四五二)三五九七

宗教法人 国柱会

賽 主 田中壮谷
 理事長 原田義彦
 門連理事 森山真治
 門連常任理事 藤本坦孝
 門連理事 的場春奈
 編集委員 (門連系外)

〒132 0024 東京都江戸川区一之江六一―一九―一八
 電話 〇三(三六五)七二二一
 FAX 〇三(三六五)九九八〇
<http://www.kokuchukai.or.jp>

京都日蓮聖人門下連合会

会 長 松下日肆
 副会長 伊丹日章
 理事長 音羽隆全
 副理事長 橋本一妙

京門連事務局
 〒602 8418 京都市上京区寺之内大宮東入
 妙蓮寺前町八七五 大本山妙蓮寺内
 電話 〇七五(四五二)三五二七
 FAX 〇七五(四五二)九三三八

日本山妙法寺大僧伽

首 座 吉田行典
 責任役員 酒井天信
 同 今井行康
 同 池田行朗
 同 二宮和嘉
 同 木津博充
 同 川岸行孝

日本山妙法寺大僧伽事務局
 〒150 0045 東京都渋谷区神泉町八一七
 電話 〇三(三四六)九三六三
 FAX 〇三(三四六)九三六七

大阪日蓮聖人門下懇話会

理事長 佐藤哲夫 事務 福島正堯
 副理事長 佐野貫順 事務 木村完祥
 理事・会計 松井英光 事務 末澤禎隆
 理事 門谷光瑞 事務 吉永義康
 理事 藤本経尚 事務 森田進
 理事 笹川行恒 事務 中村日游

〒530 0051 大阪府大阪市北区太融寺町六一―十二
 円頓寺内
 電話 〇六(六三六)七六六四
 FAX 〇六(六三六)七六六四

日蓮宗総本山 **身延山久遠寺**

〒409 2593 山梨県南巨摩郡身延町身延三五六七
電話 〇五五六(六二)一〇一一
FAX 〇五五六(六二)一〇九四

法主 内野 日総
総務 井上 瑞雄

法華宗(陣門流)総本山 **本成寺**

奉安門下最古一尊四士仰本尊
日印尊聖人開創七二〇年(平成二九年)

〒955 0845 新潟県三条市西本成寺一―一―二〇
電話 〇二五六(三三)〇〇〇八
FAX 〇二五六(三三)〇〇五九

貴首 門谷 日悠
執事 長 笹原 壯玄
山務員 一同

本門佛立宗本山 **宥清寺**

住職 高須 日良
二六世講有
執事 長 白石 日是
事務局長 奥 順作

〒602 8336 京都市上京区一条通七本松西入滝ヶ鼻町二〇〇五十一
電話 〇七五(四六三)四六二〇(代)
FAX 〇七五(四六三)四六五一

宗祖御降誕靈場 日蓮宗大本山 **誕生寺**

宗祖御降誕八百年に向かつての祈り

〒299 5501 千葉県鴨川市小湊一八三
電話 〇四(七〇九五)二六二一
FAX 〇四(七〇九五)二〇五五

貴首 石川 日命

やくよけ祖師 日蓮宗本山 **堀之内妙法寺**

山主 山田 日潮

〒166 0013 東京都杉並区堀之内三―四八―八
電話 〇三(三三三)六二四一
FAX 〇三(三三三)五〇〇七

日蓮宗大本山 **池上本門寺**

貴首 菅野 日彰
執事 長 金子 元彦
役員 一同

〒146 8576 東京都大田区池上一―一―一
電話 〇三(三七五)一三三三一
FAX 〇三(三七五)三三五〇

法華宗(真門流)総本山 **本隆寺**

貴主 田仲 日紘
執事 長 本多 信正
執事 永岡 悠希
執事 足立 真正
執事 補 笹木 研吾

〒602 8447 京都市上京区智恵光院通り五辻上ル紋屋町三三〇
電話 〇七五(四四一)五七六二
FAX 〇七五(四四一)五六六六

京都 **八本山会**

会本・本山 本満寺 貴首 伊丹 日章
大本山 本園寺 貴首 伊藤 日慈
大本山 妙顯寺 貴首 三田村 日正
本山 立本寺 貴首 上田 日瑞
本山 妙傳寺 貴首 野々垣 日祐
本山 頂妙寺 貴首 安藤 日瑛
本山 妙覺寺 貴首 及川 日周
本山 本法寺 貴首 瀬川 日照

日蓮宗靈跡本山 比企谷 **妙本寺**

貴首 玉川 日薩
執事 長 今川 高之
山務役員 一同

〒248 0007 鎌倉市大町一―一―一五一一
電話 〇四六七(二三)〇七七七
FAX 〇四六七(二五)六九六七

日蓮門下お題目初唱之靈場 日蓮宗本山東身延 **藻原寺**

貴首 持田 日勇
総務 増田 寶泉
執事 富永 一道
執事 中川 貫泰

〒297 0026 千葉県茂原市茂原一―二〇―一
電話 〇四七五(二二)三二五三
FAX 〇四七五(二二)一一七三

法華宗(本門流)大本山 **鷺山寺**

貴首 佐藤 日賢
執事 長 渡辺 明博
役員 一同

〒297 0051 千葉県茂原市鷺東四八
電話 〇四七五(二二)二九七八
FAX 〇四七五(二二)三〇三八

本門法華宗大本山 **妙蓮寺**

貴首 松下 日肆
執事 長 音羽 隆全
役員 一同

〒602 8418 京都市上京区寺ノ内通大宮東入妙蓮寺前町八七五
電話 〇七五(四五二)三五二七
FAX 〇七五(四五二)三五九七

京都 **法華門流懇話会**

法華宗(真門流) 総本山本隆寺 貴主 田仲 日紘
頭本法華宗 総本山妙満寺 貴首 山本 日恵
本門法華宗 大本山妙蓮寺 貴首 松下 日肆
法華宗(本門流) 大本山本低寺 貴首 桃井 日英
本門佛立宗 本山宥清寺 講有 高須 日良
日蓮宗 本山要法寺 貴首 丹治 日遠
法華宗(陣門流) 本山本禅寺 貴首 福井 日進
頭本法華宗 本山寂光寺 貴首 大川 日仰

日興上人御聖廟 日蓮宗大本山 **富士山法華本門寺根源**

貴首 旭 日重
執事 長 川名 義顕
参与 吉田 日綱
参与 井野上 正文

〒418 0112 静岡県富士宮市北山四九六五
電話 〇五四四(五八)一〇〇四
FAX 〇五四四(五九)〇三〇三

徳川家康公報恩創建 日蓮宗由緒寺院 **瑞輪寺**

除厄安産飯匙の祖師・七面大明神奉安

貴首 井上 日修
執事 長 稲荷 泰雅

〒110 0001 東京都台東区谷中四―二―一五
電話 〇三(三八二)四三七三
FAX 〇三(三八二)七〇三三

頭本法華宗総本山 **妙満寺**

貴首 山本 日恵
総務 吉永 義康
執事 中村 英司
執事 湯原 正純
執事 土持 悠孝
執事 鹿野 恒仁

〒606 0015 京都市左京区岩倉幡枝町九一
電話 〇七五(七九二)七二七一
FAX 〇七五(七九二)七二六七

多寶富士山 日蓮宗 **本山要法寺**

貴首 丹治 日遠

〒606 8362 京都市左京区新高倉通孫橋上ル法皇寺町四四八
電話 〇七五(七七二)三三九〇
FAX 〇七五(七七二)五九一四

日蓮宗大本山 **清澄寺**

別当 二宮 日敬
執事 長 宮崎 雅宣
役員 一同

日蓮聖人出家得度の霊場


〒299 5505 千葉県鴨川市清澄三二二―一
電話 〇四(七〇九四)〇五二五
FAX 〇四(七〇九四)〇五二七
団参には是非、研修会館をご利用ください。
一六〇名様まで可。

日蓮宗大本山 **中山法華経寺**

貴首 新井 日湛
参与 田代 浩敬
参与 植田 観樹
参与 吉田 文堯
参与 与田 中貞奨

〒272 0813 千葉県市川市中山二―一―〇一一
電話 〇四七(三三四)三四三三
FAX 〇四七(三三四)一七九六

平成三十三年二月十六日は
宗祖御降誕八百年を
迎えます



門連時報

祖廟参詣及び身延理事會開催さる



日蓮聖人門下連合会 身延理事會 平成28年6月22日

事務局より「日蓮聖人御降誕八〇〇年記念慶讃事業(案)」の説明がなされ、活発な意見交換が行われた。午後一時四十分閉会し、その後、俳優の風圭史氏により、御降誕八〇〇年記念慶讃事業の一企画として予定されている「日蓮聖人御遺文朗読劇」の一端が披露された。午後二時半、御廟法務所へ移動し、祖廟にて法味言上及び記念撮影。会場を下都ホテルに移し、午後六時より各派教団による懇親会が催された。

京都日蓮聖人門下連合会事業開催

◆「日蓮大聖人御降誕会慶讃法要開催」

京都市上京区本門法華宗大本山妙蓮寺(松下日肆貫首)で二月十六日、京都日蓮聖人門下連合会主催・京都日蓮聖人門下本山会後援のもと「日蓮大聖人御降誕会慶讃法要」が松下日肆貫首導師で行われた。

当日の法要には、有縁の各聖・檀信徒約百人の参拝があった。

法要に先立ち、日蓮宗本山妙蓮寺野々垣日祐貫首が「これからの信仰」と題し、「核家族化が進み、手を合わせることの大切さを親世代から学ぶ機会がなく、対する尊敬の意が薄れてきた。その結果として命の尊さが分



かなくなる人が増えた。今一度、ゆつくり手を合わせ法華経・お題目に感謝する時間を作ることが必要である」と法話をした。また、法要では日蓮聖人の降誕を慶讃し御報恩に謝すべく読誦・唱題の音が堂内に響き渡った。

◆本山葬と晋山式

法華宗本門流大本山本願寺(京都市中京区)は平成二十八年二月八日、法華宗第三百一十一代管長・大本山本願寺第三百九十九世貫首菅原日桑聖人法寿七十六歳の遷化にともない三月十二日に本山葬が営まれた。

また、後任には福井県敦賀市本勝寺住職桃井日英上人が選出され、第四百十世の貫首として五月六日に晋山式が奉修された。桃井貫首は、前貫首の思いを引き継ぎ本山の発展に尽くし、日蓮大聖人御降誕八〇〇年の記念事業に取り組み決意を仏祖三宝の御前に表明された。



桃井日英上人

◆「京都日蓮聖人門下連合会主催 立教開宗会」開催

滋賀県大津市比叡山横川定光院(橋本一妙主監)で四月二十八日、京都日蓮聖人門下連合会主催・京都日蓮聖人門下本山会後援のもと「立教開宗会」が本門法華宗大本山妙蓮寺松下日肆貫首導師で行われた。当日は悪天候にも関わらず、約百二十名の僧侶・檀信徒が歩いて登詣した。



法要に先立ち、日蓮宗常徳寺住職鶏内泰寛師による法話が行われ、講題でもあ

大阪日蓮聖人門下懇話会

◆第二十回由緒寺院巡拝バスツアー

檀信徒と共に京都・大阪近郊の日蓮聖人所縁の寺院を巡るバスツアーは、本年三月二十九日に行われました。比叡山横川の定光院と滋賀県大津市の喜登閣に参拝。鮎家の郷で昼食、近江八幡市安土町に移動し、原寸大に復元された安土城天主がある「信長の館」などを見学しました。

◆第二十九回総会

日蓮本宗・圓頓寺に於いて六月八日開催され、議事は、満場一致で承認されました。議事に先立ち、日蓮宗・蓮城寺住職 笹川恒師から、「木村長門守重成公一大阪之陣の若桜」の講演がありました。写真を多用した資料を基にお話しを頂きました。

▼人事(事務局への連絡日を含む)

年月日	氏名	宗派	門連役職	就任	退任
平成二八・二・一三	石田日信	法華宗(本門流)	顧問	就任	退任
平成二八・六・二九	藤井日晴	本門法華宗	常任理事	就任	退任
平成二八・七・一	根本康秀	日蓮宗	幹事	就任	退任
平成二八・七・二	山内日開	本門佛立宗	顧問	就任	退任
	高須日良			就任	退任

【書籍紹介】

日蓮を読み解く 80章

『日蓮を読み解く80章』

(ダイヤモンド社) 浜島典彦監修・定価1500円+税

本書は、日蓮聖人の生涯や日蓮聖人の後継者、日蓮聖人に影響を受けた人物のことなど、八十項目に分けてわかりやすくまとめられている。

見開きの二ページが二項目という構成になっている。偶数ページには、日蓮聖人や日蓮系諸宗派に関する文章の一部を抜粋したものが掲載されている。日蓮聖人を題材とする名著を転載している。また、文章の一部に空欄を設けてクイズ形式にしている。楽しみながら読み進むことができる。奇数ページには、解説とクイズの答えが掲載されている。

日蓮聖人や日蓮系諸宗派のことだけでなく、日蓮聖人に影響を受けた人物も取り上げられている。葛飾北斎や歌川国芳など檀徒の芸術家たちや、宮沢賢治といった文学者など、誰もが知る人物たちが紹介されているので、本書を読むことで、日蓮聖人や日蓮系諸宗派に親しみと関心を持ってもらうことができるのではないだろうか。

4章は「日蓮聖人門下連合会」という章目となっており、章目の通り日蓮聖人門下連合会が取り上げられている。日蓮聖人門下連合会の十一派が紹介されているので、日蓮聖人門下連合会の存在や各宗派のことを多くの人々に知ってもらうにも絶好の書である。

ご家族と共に子孫に伝える信仰の証

日蓮宗全国五十七箇本山 御朱印めぐりセット

日蓮宗の本山五十七箇寺を巡り五十七紙の貫首さまの御首題に御朱印を拝受し巡る生涯忘れ得ぬ感動の旅を



※セット内容イメージ

監修 日蓮宗全国本山会

【セット内容】(箱入り)
57本山貫首さまの御首題 57紙+白紙3枚 計60枚
御首題携行帳 3帳(予備2帳)
参拝案内カード 57種(最新地図・交通情報)
手引書 1冊
※参拝のワンポイント・団参コース等の案内

頒価 2,160円 (税込・送料別)



全国日蓮宗本山会監修
日蓮宗
御朱印めぐり

頒価 3,240円
【税込・送料別】

「全国五十七本山めぐり」完全対応・必携の書。

日蓮宗五十七本山の伝記と歴史の旅案内。幾星霜、信仰を支えてきた緑に映える伽藍の偉容、日蓮聖人とお弟子たちの歴史への旅案内。

各派・教団・短信

京都門下連合会

◆平成二十八年
度行事予定

◆一月二十九日(金) 新年理事会
(本証寺文化会館) 会長松下日肆
下、副会長伊丹日章、理事長
音羽隆全、副理事長橋本一妙師。

◆二月十六日(火) 総会・御降誕
会(本門法華宗大本山妙蓮寺) 導
師松下日肆、講師野々垣日祐
下。

◆三月八日(火) 理事会(大本山
妙蓮寺) 立教開宗会の件。

◆四月二十八日(火) 立教開宗会
(比叡山横川定光院) 導師松下日肆
下、講師鶏内泰寛上人、観光参
拜、真言宗智山派総本山智積院。

◆六月七日(火) 理事会(大本山
妙蓮寺) 第五十二回夏季大学の件。

◆六月二十二日(水) 身延理事会(身
延山久遠寺) 会長、理事長他出席。

◆八月二十七日(土) 第五十二回
夏季大学(本証寺文化会館) 講師
松下日肆、(大本山妙蓮寺) 講師
北川前肇先生(立正大学仏教学部
教授)、岩野祥子様(元日本南極地
域観測隊員)。

◆同日 理事会(本証寺文化会館)
お会式の件。

◆十月一日(土) お会式(本門法
華宗大本山妙蓮寺) 導師松下日肆
下、講師伊丹日章下。

日蓮宗

◆日蓮宗は終戦
記念日の八月十
五日、千代田区の千鳥ヶ淵戦没者
墓苑で「千鳥ヶ淵戦没者追善供養
と世界立正平和祈願法要」を営み、
多くの参列者と共にお題目を唱え、
犠牲になった方への供養と、二度
と戦争を繰り返さないとの誓い、
そして世界平和の実現への祈りを
捧げた。

◆日蓮宗は九州教区(濱田義正教
区長)と共に八月二日、「長崎原
爆死没者追善供養と世界立正平和
祈願法要」を長崎市本蓮寺で営み、
多数の僧侶檀信徒が参列し、原爆
死没者を悼み、世界立正平和を祈
願した。(大澤宏明)

◆二月十三日、
法華宗本門流 尼崎市 大本山
本興寺貫首 小西日遠下が法華
宗百三十五代管長に就任し、二
十五日同本山において推戴式が行
われた。

◆四月三〇日、青年伝道隊第九
期隊員二十四名の練成が行われた
(大本山本証寺)。

◆四月十一日、戦没者慰霊法要奉
修(千鳥ヶ淵墓苑)。

◆四月十二日、志永二十七年(一
四二〇)に創立され、現在まで続
く「興隆学林専門学校」の入学式
が行われた(宗学科十名、宗学研
究科三名入学)。

◆五月六日、京都市 大本山本証
寺百四十四世桃井日英上人晋山式。

◆五月十七日、第七十一次
宗会開催。

◆五月二十六日、平成二
十八年度宗務所長会開催。

◆六月十一日、茂原市 大本山鷲
山寺百廿二世佐藤日賢上人晋山式。

◆十二月三日、当宗に縁のある
方々へ「良縁成就」の場を積極的
に協力応援し、良き出会いの場を
提供すべくENKAI(縁会)の
第三回を東京台場で開催予定。

頭本法華宗

◆三月三日・四
日の二日間にわ
たり、京都・総本山妙満寺におい
て、第七十一定期宗会が開催され
た。平成二十七年宗務事業報告
及び決算、平成二十八年度事業計
画及び予算案が承認された。また、
任期満了に伴う管長推戴が行われ
ることに伴い、引き続き総本山
妙満寺の貫首も務められる。宗会
終了後、管長再任奉告式を執り行
った。

◆四月十一日、千葉県大網白里市
芳墳寺において、東部教区連合会
主催による先師報恩法要が厳修さ
れた。法要後、平成二十八年度定
期総会が開催された。

◆五月十四日、十五日の二日間に
わたり、京都総本山妙満寺におい
て、山本日恵下大導師のもと、
春季報恩大法要が厳修された。ま
た、島田幸晴宗務総長導師のもと
「安珍清姫の鐘」鐘供養が奉行され
た。鐘供養後、京都先斗町・市さ
よ氏による舞踊奉納が行われた。

◆七月二十五日、二十八日の三泊
四日にわたり、総本山妙満寺にお
いて、「第五十二回・頭本青少年練
成会」を開催、四十名の小中学生
が参加した。

◆八月二十五日、九月八日の十五
日間、総本山妙満寺にお
いて、平成二十八年度妙塔学林
(本科・研修科)を開講。

◆二月三日、総
本山本成寺(新
潟県三条市)で「節分大祈願会」
が、本成寺貫首・門谷日悠下導
師により厳修された。今年も午後
一時と三時の祈願終了後には恒例

の鬼踊り、豆まきが行われ参詣者
を楽ませた。

◆三月三日・四日の二日間、第百
二十五次定期宗会が宗務院にて開
催された。

◆五月二日、宗研所報編集会議が
宗務院にて開催された。

◆五月六日、宗務所長会が宗務院
にて開催された。

◆五月六日、六月二十一日までの
四十七日間、「法華宗学林」が総本
山本成寺にて開講された。今年も
全国より多くの寺院徒が集まっ
た。学林生達は毎日教学研究・練
経・浄行等に励み、行学二道に精
進した。

◆五月十二日、霊跡別院蓮着寺
(静岡県伊東市)にて「伊豆法難会
が、中野日仁山主導師により厳修
された。本堂の法要に引き続き、
俣岩を間近に臨む奥の院にて法要
が営まれた。

法華宗真門流

◆三月二十八日
、三十日、本隆
寺に於いて、第三十三回僧風林・
錬成道場開催。

◆四月六日、二十五日、本隆寺に
於いて、春季学林開講。

◆四月十一日、十三日、本隆寺に
於いて、春季大法会厳修。

◆四月十九日、第四教区(林勝信
所長)教師講習会開催。

◆五月十六日、十七日、第三教区
(安立修学所長)第三十二回教区研
修会開催。

◆五月十六日、二十日、函館・妙
見寺に於いて、第十三期布教師養
成所(岡眞行所長)開所。

◆五月二十二日、小樽・妙源寺に
於いて、第四教区第三十二回合掌
運動北海道大会開催。

◆六月六日、七日、本隆寺に於い
て、研修会開催。

◆六月七日、本隆寺に於いて、真
門教学講習会開催。

◆八月一日、三日、本隆寺に於い
て、暁天講座開催。

◆八月十六日、本隆寺に於いて、
孟蘭盆施餓鬼法要奉修。

◆八月二十日、二十六日、本隆寺
に於いて、夏期講習会開催。
(森田量哲)

本門法華宗

◆三月九日、第
百五回本門法華
宗宗会が大本山妙蓮寺卯木講堂に
おいて開催。

◆四月十二日、大本山妙蓮寺(松
下日肆貫首)において春季大法要
を奉修。

◆六月二十日、第百六回本門法華
宗臨時宗会が大本山妙蓮寺卯木講
堂において開催。本門法華宗宗務
総長に香川日憲師(山口・本閉寺)
を選出。本門法華宗青年部会準備
委員会が発足。

◆七月四日、香川日憲宗務総長は
内局部長に以下の者を任命した。
増田隆雄総務部長(大阪・久本寺)、
吉村日彦宗務部長(大阪・大願寺)、
高邊晶啓財務部長(大阪・久成寺)、
土畑信教教務部長(大阪・本龍寺)、
松本真隆庶務部長(京都・成願寺)。

◆本門法華宗学院(渡辺日恩学院
長)第百五十六回教学講習会を三
月二十九・三十日、第百五十七回
同講習会を六月十六・十七日、卯木
講堂にて開講。

◆布教誌「生きる」第六十六号、
情報「信行」第百八十五号を七月
一日に発行。(吉村光敬)

◆一月一日、元
旦大國禱。新年
拜賀式。神酒拜賀式。賽主先生以
下有志明治神宮参拝。七日、昭和
天皇祭。賽主先生以下中央有志武
蔵野御陵参拝。十日、近畿地方連
合局新年会。十六日、各局輪番常
勤給仕。十七日、恩師忌。妙宗大
靈廟例月供養会。中央同志新年大
会開催。二十二日、明治の日運
営・実行委員会(於、衆議院第二
議員会館)に、森山真治実行委員
出席。二十五日、日蓮聖人門下連
合会機関紙編集委員会(於、日蓮
宗宗務院)に、森山真治編集委員
員・的場春奈編集委員出席。

◆二月一日、月日大國禱。十一日、
紀元節慶讃法要。十五日、釈尊涅槃
会報恩大法要。十六日、日蓮聖
人降誕会慶讃大法要。三原じゅん
子参議院議員を応援する会に、賽
主先生他職員出席。十七日、恩師

忌。常勤給仕日。二十日、妙宗大
靈廟各局輪番常勤給仕。二十一日、
妙宗大靈廟例月供養会。

◆三月一日、月日大國禱。六日、
中央連合協議会婦人部「蓮華サー
クル」開催。十三日、国柱会必武
館剣道大会開催。中央連合協議会
申孝園清掃奉仕。十七日、恩師忌
常勤給仕日。十九日、妙宗大靈廟
各局輪番常勤給仕。二十日、妙宗
大靈廟春季彼岸大供養会。

◆四月一日、月日大國禱。三日、
申孝園桜まつり開催。八日、釈尊
降誕会慶讃大法要。御聖日集會担
当・田中いく子講師。十六日、妙
宗大靈廟各局輪番常勤給仕。十七
日、妙宗大靈廟例月供養会。二十
七日、身延先発隊(若杉日出雄講
師・森山真治講師補)出発。二十
八日、立正会慶讃法要。御聖日集
會担当・山田友重講師。第八十六
回身延登詣団開催。翌日、身延山
思親閣登詣。(森山真治)

国柱会

◆一月一日、元
旦大國禱。新年
拜賀式。神酒拜賀式。賽主先生以
下有志明治神宮参拝。七日、昭和
天皇祭。賽主先生以下中央有志武
蔵野御陵参拝。十日、近畿地方連
合局新年会。十六日、各局輪番常
勤給仕。十七日、恩師忌。妙宗大
靈廟例月供養会。中央同志新年大
会開催。二十二日、明治の日運
営・実行委員会(於、衆議院第二
議員会館)に、森山真治実行委員
出席。二十五日、日蓮聖人門下連
合会機関紙編集委員会(於、日蓮
宗宗務院)に、森山真治編集委員
員・的場春奈編集委員出席。

◆二月一日、月日大國禱。十一日、
紀元節慶讃法要。十五日、釈尊涅槃
会報恩大法要。十六日、日蓮聖
人降誕会慶讃大法要。三原じゅん
子参議院議員を応援する会に、賽
主先生他職員出席。十七日、恩師

忌。常勤給仕日。二十日、妙宗大
靈廟各局輪番常勤給仕。二十一日、
妙宗大靈廟例月供養会。

◆三月一日、月日大國禱。六日、
中央連合協議会婦人部「蓮華サー
クル」開催。十三日、国柱会必武
館剣道大会開催。中央連合協議会
申孝園清掃奉仕。十七日、恩師忌
常勤給仕日。十九日、妙宗大靈廟
各局輪番常勤給仕。二十日、妙宗
大靈廟春季彼岸大供養会。

◆四月一日、月日大國禱。三日、
申孝園桜まつり開催。八日、釈尊
降誕会慶讃大法要。御聖日集會担
当・田中いく子講師。十六日、妙
宗大靈廟各局輪番常勤給仕。十七
日、妙宗大靈廟例月供養会。二十
七日、身延先発隊(若杉日出雄講
師・森山真治講師補)出発。二十
八日、立正会慶讃法要。御聖日集
會担当・山田友重講師。第八十六
回身延登詣団開催。翌日、身延山
思親閣登詣。(森山真治)

◆五月十六日、二十日、函館・妙
見寺に於いて、第十三期布教師養
成所(岡眞行所長)開所。

◆五月二十二日、小樽・妙源寺に
於いて、第四教区第三十二回合掌
運動北海道大会開催。

日蓮聖人門下連合会

◆目的
本会は日蓮聖人の理想を実現するた
め、祖廟を中心として門下各派及び
教団並びに地方門下連合会の連絡
協力、団結を強化することを目的と
する。

◆事業
本会は前条の目的を達成するため、
左の事業を行う。

- 1、祖廟護持の組織強化
- 2、教育事業の提携
- 3、布教の連合強化
- 4、懇談会・研究会・講演会等の
開催
- 5、各種出版物の刊行
- 6、海外布教の提携及び交流
- 7、対外的な各種の運動
- 8、その他

- 加盟団体
日蓮宗 法華宗本門流
頭本法華宗 法華宗本門流
本門佛立宗 日蓮本宗
法華宗真門流 本門法華宗
国柱会 日本山妙法寺
京都門下連合会

◆二月三日、総
本山本成寺(新
潟県三条市)で「節分大祈願会」
が、本成寺貫首・門谷日悠下導
師により厳修された。今年も午後
一時と三時の祈願終了後には恒例
の鬼踊り、豆まきが行われ参詣者
を楽ませた。